



航空ヘルメット姿で撮影 藤枝宿ふれあいまつり

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、11月1日（日）、藤枝市藤枝地区交流センターで行われた藤枝地区社会福祉協議会主催の「第19回藤枝宿ふれあいまつり」に参加し、広報ブースの設置と自衛隊車両の展示などを行った。

屋内メイン会場では、地元の小・中学生による合唱や地元有志のマジックショーなどが行われ、屋外展示ふれあい会場では、特産品の販売や盲導犬訓練展示などさまざまなブースが立ち並び、多くの家族連れで賑わいを見せた。

静岡地本は自衛隊の小型トラック、災害派遣活動パネル、隊員が屋外訓練時に食べる携行食を展示したほか、子供用制服の試着体験やブースを訪れた中学生等に自衛隊採用種目の制度説明を行った。

また、航空自衛隊静浜基地（焼津市）で使用されている航空自衛隊のパイロット用ヘルメットを装着し、顔出しパネルを使ってパイロット姿で記念撮影ができるスペースも設置。子供たちに大好評となった。

来場者からは「災害が起きた時、自衛隊の方々が頑張っているのを見て大変だなと感じています」「頑張って勉強して自衛官を目指したいです」などの言葉を聞くことができた。

静岡地本は、今後もイベントなどを通じて多くの方々に自衛隊の活動・制度を知ってもらい、自衛隊を身近に感じてもらえるよう努力していく。



タミヤフェアで自衛隊の魅力を伝える

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、11月17日（土）と18日（日）、ツインメッセ静岡（静岡市）で開催された「タミヤフェア2018」において自衛隊の広報活動を実施した。

これは、株式会社タミヤが主催し今年で20回目を迎える「模型の世界首都・静岡」秋の一大イベント。会場では、RCカーやミニ四駆の世界大会、プログラミング体験教室、粘土で作るスイーツデコレーションなど、国籍・年齢・性別を問わず楽しめる催しが行われ、2日間で国内外から3万人が訪れた。

会場内に設置した自衛隊広報コーナーでは、自衛官の制服や迷彩服、防弾チョッキの試着体験を実施。制服を着て記念撮影をする海外からの来場者や親子で迷彩服と防弾チョッキを試着する姿も多く見られ、「防弾チョッキは実際に着てみると重い。これで訓練をするのは大変なのは」など、説明を担当した隊員はさまざまな質問への対応に追われていた。

一方自衛官制度説明コーナーでは、自衛隊に興味を持つ若者や家族に自衛官の職種の多様性や任用制度、募集対象年齢の引上げについて説明し、自衛官の魅力ややりがいも伝えた。

また、17日は板妻駐屯地（御殿場市）第34普通科連隊が軽装甲機動車・高機動車・偵察用オートバイを、18日は駒門駐屯地（同市）第1戦車大隊が96式装甲車を展示し、来場者の注目を集めていた。

静岡地本は、今後も地域のイベントに積極的に参加し、幅広い年齢層に自衛隊の活動を正しく伝える努力を継続していく。



静大祭で学生に自衛隊をナビゲート

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、11月17日（土）と18日（日）の2日間、静岡大学静岡キャンパス（静岡市）において行われた「第69回静大祭」に自衛隊ブースを出展し、広報活動を実施した。

学生が主体となって開催するこのイベントは、日頃の学習や研究の成果、サークル活動の紹介などを行う「静大祭」、農学部エリアの「農学祭」、同大学の教育・研究・社会貢献をアピールする「キャンパスフェスティバル静岡」が同時開催され、9000人の来場者で賑わいを見せた。

自衛隊ブースでは、ブルーインパールの飛行の様子をパイロットになったつもりで臨場感あふれる音と映像で疑似体験できるVRスコープ体験や、陸海空自衛隊の制服試着体験、自衛隊の役割、職種、階級章及び徽章などをまとめた説明パネル60枚の展示を行うとともに、自衛官採用制度説明コーナーでは、自衛官のキャリアアップに必要な教育体系や教育カリキュラムなどの育成システムについて分かりやすく解説した。

ブースを訪れた学生は「陸海空自衛隊の職種の豊富さに驚いた」「幹部自衛官として指揮官になる道、曹として現場のスペシャリストになる道、どれもやりがいがありそう」などと感想を話していた。

静岡地本は、今後も大学祭などに積極的に参加して自衛官の活躍や魅力について正しく学生に発信するとともに、自衛官を目指す学生のナビゲーターを担っていく。

